佐賀新聞　平成20年7月8日(火)18

佐賀大ケッチ

佐賀大OBの廣島巌さんが描いた「かあちゃんの化粧」

かあちゃんの化粧

「女性の裏側」描く

ある日、いつもは使わない階段を降りていたら、壁に掛かった絵の前で足が止まった。絵には女性が二人描かれている。前にいる女性は胸をはだけて今まさに口紅を塗ろうとしている。もう一人はその背後から冷ややかなまなざしで眺めている。絵の題は「かあちゃんの化粧」。思わず笑ってしまった。口紅を塗っているのは「かあちゃん」なのか。じっと見ていると、かあちゃんがだんだん化けていく様子が見えてくる。

この絵を描いたのは廣島巌さん。絵についてお伺いしたいと思い電話をかけた。廣島さんは昭和二十一年生まれ。この絵を描いた時は四十代で、そのころは「女性の裏側」をテーマに、つめを切る女性なども描いたという。

「化粧をしている女性のモデルはどなたですか」と尋ねると「八人きょうだいで、姉が何人もいたのでモデルは姉でもあり、妻でもあります」。さらに「それを眺めているもう一人の女性は先生の目ですか」との問いに「私にとっての理想の女性です」との答え。

廣島さんは佐賀大学で絵を学ばれた。学生時代のことを聞くと、即座に「楽しかった。本当に良い時代でした。石本秀雄先生の下で絵のことと、お酒をしっかり教えてもらいました」と笑った。大学には、廣島さんと同じように佐賀大学で学ばれた方々から寄贈された絵がたくさんある。

「かあちゃんの化粧」の前で長く足を止めたのは、三十歳過ぎた私の息子も思春期のころ、化粧をしている私の姿を、この絵のように冷ややかに眺めていたに違いないと思ったからである。さて現在、かあちゃんの息子である男子学生の中には、雨が降ると大学まで母親に送ってもらう者がいると最近聞いた。かあちゃんと息子の関係は、昔と変わったのだろうか。

（佐賀大学理事・北島悦子）

※次回は七月二十九日の予定です。